（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぬまづラビットハウス			
○保護者評価実施期間	Ｒ７　年　８　月　１　日		～	Ｒ７　年　８　月　31　日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	22　名	（回答者数）	21 名
○従業者評価実施期間	Ｒ７年　９　月　１　日		～	Ｒ７年　９　月　15　日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	５名	（回答者数）	５名
○事業者向け自己評価表作成日	Ｒ７　年　９　月　26　日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・1人1人に対して個別療育・集団療育・運動療育全てを利用日に行えるようにカリキュラムを作っている所。それに対して保護者も子供達も満足してくれている所。	療育に合わせて活動室をパーテーションなどを使い、集中して活動が出来る様に工夫をしている。また園庭などがないので粗大運動が出来る様に隔週で公園等に行き粗大運動が出来る様にしている。プールを行う場所がないので、夏の期間は水遊びが出来る池やプールのある公園に行っている。	季節に合わせた製作や行事なども療育要素を入れながら行いその中で子供達の成長を確認している。また、毎日振り返りを行い共通理解や次の療育に繋がるようにしている。
2	・利用した日に行った療育の内容やどんな様子だったのかなど細かく療育日誌に記録をして毎回持ち帰ってもらっている事 ・その他に連絡帳に家や園でのお子様の様子や保護者様の悩みなど記入してくださる事	その日のうちに今日の療育の内容や様子を保護者の方にお伝えできるように分かり易く記入している。また支援者も担当制にはしいていないが、どの支援者が次に療育を行ってもその子の様子や進み具合などが分かるようになっている。 連絡帳に書いてくださった悩みなどは気持ちを共感しながら一緒に考えて答えていくようにしている。	療育日誌はそのまま保育園や幼稚園に持っていき、担任等に見て頂き情報共有出来る様にしている。また他の療育を利用している方はそこにも持って行っていただいている。お互いに見学をしてより理解が深められるようにしている。 保護者の方と直接会ってお話が出来るように時間も作っている
3	・社長が児童精神科医のドクターであり、分からない事など的確に教えてもらえる事。	月に一回社長とのミーティングを行い療育で困っている事を聞くことが出来たり研修も行っている。	保護者様の中でも困っている事や聞きたいことがある場合には社長との相談会も開けるようになっている また、保護者向けに研修会・座談会も行っている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	アセスメントツールなどのシステム導入していないので、自分達で検討しており時間も労力もかかってしまっている事 また、保護者とのやり取りも電話や連絡帳のみになっている所	システムを入れてはいるが、最低限のものなので手作業の仕事が多い。	システム導入を検討するとともにシステム以外でも使い易い物を探してラビットハウスに合う方法を考えていく
2	職員それぞれがいい所を持っているが、それを出し切れていない所。	まだ勤務して１．２年の職員が多く、何でも言い合える環境にはしているつもりだが、遠慮をしている所があるのではないかと考えられる。	・自信を持って働いていく為にも、積極的に研修などに参加をして、療育や人間力を高めて行く事。 ・打ち合わせ以外で会話をする場面が少ないので、休憩時間や療育以外の井戸端会議的な場面を大切にしていく。